ARIBA tsushin

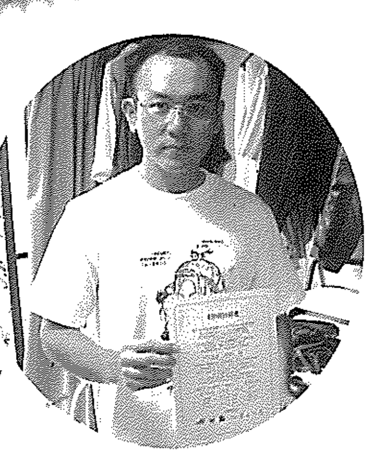
ありば通心

普及と改良が進む人工内耳

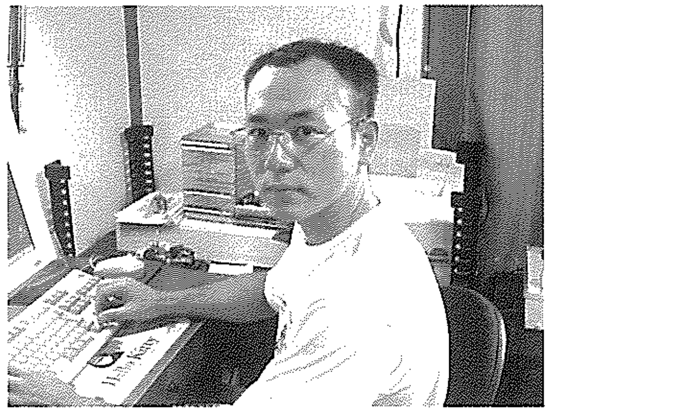
音がもどってきた。会話ができるようになった。

人工内耳とは？

難聴には大きく分けて二種類ある。一つは外の音が内耳に伝わりにくいために起こる伝音性難聴。原因の多くは、中耳炎などに合併して起こる。病院で治療を行うが、補聴器で聴力を補うことで音をとりもどすこともある。もう一つは、音の振動を神経の電流活動に変換する内耳が傷ついて起こる感音性難聴といわれるもの。ひと昔前まで、感音性難聴の回復はむずかしかったが、電子技術の進歩によって人工内耳という画期的な装置が開発された。音の振動を電気に換えて内耳を刺激するのが人工内耳だが、この技術によって、音が聞こえなかった人も会話ができるようになった。鹿児島市に住む小倉鉄郎さんもその一人。



トライアスロンにも出場する



県内で初めて人工内耳の手術を受けた小倉さん

県内で初めての人工内耳手術

小倉さんは4歳の時の高熱が原因で聴力が落ち始めた。高校生の頃に聴力が90デシベル（耳元で大きな声を出しても聞きとりづらいレベル）。小倉さんは補聴器を両耳に付け、唇を読み取る読話も併用したが、相手によって分かる人と分からない人の差が大きかった。とくに高い声が聞こえないので、女性や声の細い人の話はまったく聞きとれなかった。小倉さんが人工内耳の手術をしたのは平成9年9月。県内で初めての人工内耳の手術だった。人工内耳についての基礎知識はあったが、全面的に肯定しているわけではなかった。「人工内耳を耳の後ろに埋める際に、頭に傷をつけますし、思っているほど良く聞こえないのでは。私にとっては賭けでもありました」と小倉さん。

技術の進歩と装用効果で普及

手術後、最初の音入れではあまり良く聞こえなかった。何回か装置の調整を行っていくうちに良く聞こえるようになった。静かな場所での一対一の会話であれば、健聴者にもどったのではないか思うくらい聞こえが良かった。ただ、騒々しい場所や大勢で会話する所では聞こえが極端に落ち、言葉の断片すら拾えなかった。それでも慣れるに従い、家族との会話がもどってきた。人工内耳は補聴器のように長時間装用しても疲れない。しかし、人工内耳でだれもが聴力を取りもどせるわけではない。難聴者であることにかわりはなく、まわりの人の理解がなければコミュニケーションはとれない。

小倉さんは「人工内耳を装用するということは健聴者に近づこうと背伸びをして生きていくようなもの。時には疲れることもある。聞こえないまま自分らしく生きていく選択もあるはず」と語る。人工内耳は技術の進歩によって性能が向上し、以前は一社の製品しかなかったが、今は二社の製品から選べるようになった。また、子どもへの装用効果も認められるなど、今後の普及が期待されている。

鹿児島のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

KAGOSHIMA

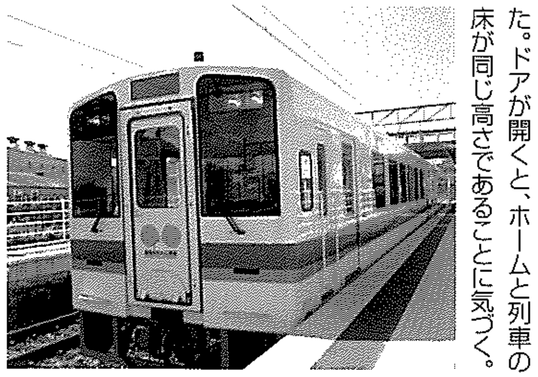
バリアフリ〜最前線

Barrier Free-Saizensen

ゆったり、心地良く

FILE No.1 肥薩おれんじ鉄道

（肥薩おれんじ鉄道株式会社）
●0965-32-5678



ホームと乗降口の段差がなく、乗り降りが楽

●今年三月に開業したばかりの肥薩おれんじ鉄道。熊本県の八代市と鹿児島県の川内市を結ぶ。九州の西海岸をコトコト走る列車の窓には明るい光がふりそそぎ青い海と緑が広がる。沿線の名物である柑橘類の甘い香りもただよってきそうだ。白を基調にさわやかなブルーとグリーンとオレンジのラインが印象的な車両が、ホームに入ってきた。ドアが開くと、ホームと列車の床が同じ高さであることに気づく。

広い窓に美しい風景がひろがる

段差がないので乗り降りがとても楽だ。車内は明るく広く、運転席横に車いすを置くスペースがとってあり、車いすを固定するヒモも用意されている。トイレは車いすに対応している。座席はボックス式の四人掛けと、窓と平行に並んだ長いすがあり、優先席も設けてある。沿線のすばらしい景色を楽しむことができる広い窓がうれしい。阿久根、出水、水俣、八代駅など主要な駅には、多目的トイレが用意されている。駅構内にはスロープがあり、ホームには点字ブロックが埋め込まれているので、高齢者や障害者も気軽に利用できる。●

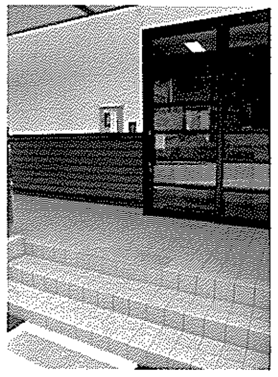
車いす置き場と車いすを固定するロープ

ぬくもりがあって親しみやすい

FILE No.2 犬迫駐在所

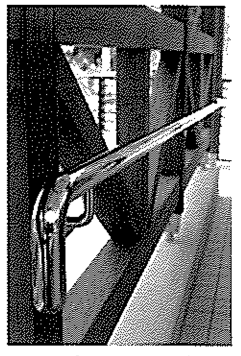
（鹿児島市犬迫町）

●のどかな田園風景にとけこんだログハウス風の駐在所がおめみえした。場所は鹿児島市犬迫町、県道徳重横井鹿児島線沿い。まわりを緑で囲まれ、近くには田んぼが広がる犬迫駐在所である。ふんだんに使ってある木材と、茶色の屋根や白い壁が緑に映え、木の風合があたたかみを出している。これまでの駐在所のイメージとはずいぶん違う雰囲気に、思わず立ち寄りたくなる。敷地も広く、玄関横には車いす使用者用のスロープが設けてある。また、相談室などがある内部は床がフラット。犬迫地区の生活の安全を守る中核センターとして、訪れる人の利便性に配慮したつくりとなっている。

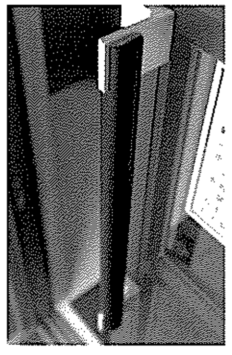


点字ブロックで入り口へ誘導

管内には、老人ホームなどの高齢者福祉施設等が数多くある。「駐在所前の道路は車の往来が結構あり、道を訪ねるなどみなさんが気軽に利用していただきたいですね」と駐在所員のお話。こうした施設利用者にとっても親しみやすいスペースとなることだろう。●

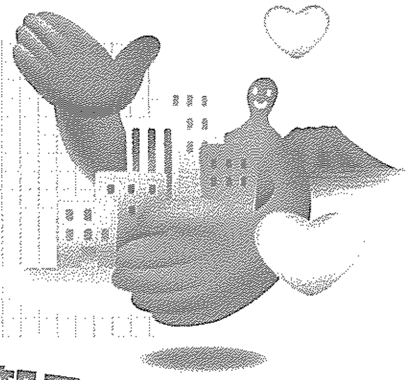


スロープには手すりが完備



入り口はスライド式の扉に

木をふんだんに使った親しみのわく建物



鹿児島県からのお知らせ

鹿児島県障害福祉課からのお知らせ

鹿児島県福祉のまちづくり条例等を改正しました！

鹿児島県では，平成１１年3月に「鹿児島県福祉のまちづくり条例」を制定し，高齢の方や障害をお持の方，赤ちゃんを連れた方など，誰もが建物や道路，公園などを安心して快適に利用することができる「福祉のまちづくり」を進めています。

今回の改正では，条例の制定から5年が経過し，この間に変化した国のハートビル法，交通バリアフリー法の整備基準等に対応するため，公共的施設の範囲の拡大や整備基準等の見直しなどを行い，7月1日に施行しました。

「福祉のまちづくり」を推進するためには，県，市町村，事業者，県民の皆さんが，それぞれの役割を認識し，いっしょになって進めていくことが必要ですので，ご理解とご協力をお願いします。

	改正前	改正後
条例	●「公共的施設」定義の見直し 「不特定かつ多数の者の利用に供する施設」	●「公共的施設」定義の見直し 「多数の者が利用する施設」
施行規則	●対象となる「公共的施設」の追加 「病院、劇場、集会場、百貨店、共同住宅(25戸以上のもの)、工場(見学施設があるもの)、道路、公園など」	●対象となる「公共的施設」の追加 「左記の施設＋共同住宅(全て)、工場(全て)、寄宿舎又は下宿」
	●届出対象「特定公共的施設」の見直し 見直し対象の例 ・共同住宅(25戸以上)　・工場(3000m²以上)	●届出対象「特定公共的施設」の見直し 見直し対象の例 ・協同住宅等(2000m²以上)　・工場(2000m²以上)
	●基準の適用範囲の見直し ・整備基準：不特定かつ多数の者が利用する部分 ・目標となる基準：不特定かつ多数の者が利用する部分	●基準の適用範囲の見直し ・整備基準：不特定かつ多数の者又は主として高齢者、障害者等が利用する部分 ・目標となる基準：多数の者が利用する部分
	●整備基準の構成の見直し 出入口、廊下、階段、昇降機、便所等の部分ごとに関連基準を規定	●整備基準の構成の見直し 車いす使用者等が円滑に利用することができる経路を構成する各部分の基準をまとめて規定(利用円滑化経路)

ありば掲示板⑤　「友愛フェスティバル」開催!

9月15日、平成16年度友愛フェスティバルが、市町村自治会館で開催されました。このフェスティバルは、社会復帰を目指している精神障害当事者の社会復帰・社会参加の意欲向上を図ることを目的に県精神障害者家族会連合会が毎年開催しているものです。

地域で暮らす精神障害者およびその家族がいっしょになって、日ごろ自宅、保健所デイケア、病院デイケア、作業所、社会復帰施設等で習得した踊り、歌、楽器演奏、寸劇などを発表したほか、当事者が中心となって制作した作品の展示・即売などが行われました。社会復帰を目指している精神障害当事者や、その家族・スタッフの親睦交流会を通して、友だちの輪にひろがりを見せていました。

※「ありば第6号」のありばヒューマンドキュメントのコーナーにご登場いただきました弁護士の野村浩志さんは、病状悪化のため4月末に急逝されました。故人のご冥福を心よりお祈りします。

リレーエッセイ

ハードルを越えて⑤

加治佐 博昭さん
（鹿児島市）

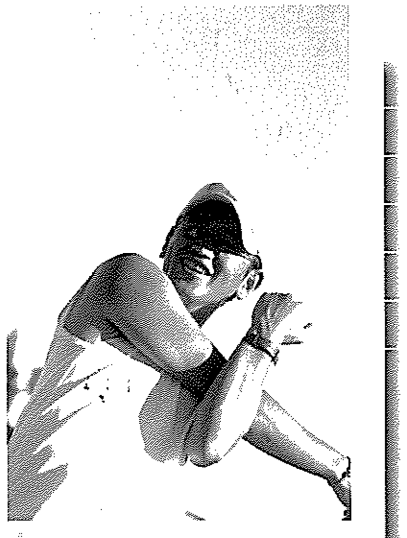
世界という大舞台をめざし、走り続けていきます。

小さい頃から走るのが好きで、地域の駅伝大会などによく出場していました。中学・高校と陸上部に入り、高校の3年間は県下一周駅伝に、指宿チームのメンバーとして連続出場したのが忘れられないですね。高校卒業後、東京の電気関連の会社に就職してからも、年に3～4回は市民マラソンなどを走っていました。ところが、21歳の時に運転免許証の書き換えに行ったところ、色の識別ができないことがわかったんです。病院では"網膜色素変性症"と診断されました。視野が狭くなっていき、失明の恐れもある難病です。仕事も、カメラの部品を扱う現場から事務の方へと異動させていただきました。しかし、自分の将来のことなどを考えて、去年の3月に鹿児島へ帰ってきました。現在、あんま・鍼灸師の資格をとるために、鹿児島市の盲学校に通っています。

走ることへの夢もずっと持ち続けていたので、去年11月に大分で開催された「大分盲人チャレンジマラソン」10キロの部に出場し、優勝しました。翌月に行われた宮崎での「国際青島太平洋マラソン」のハーフマラソンでも、これまでの記録を10分以上縮めて大会新記録で優勝することができました。先導車がいないので、ガード下などの暗い所は歩いたり、コースがわかりづらいY字路では沿道の人に教えてもらったり、いろんなことを経験することができました。今は、4年に1度開催されるパラリンピック出場をめざして練習に取組んでいます。日本一になっても、世界とはまだまだ大きな差があります。ただ、夢をあきらめることなく、これからも走り続けていきたいと思います。

●加治佐 博昭さん

揖宿郡頴娃町生まれ。
青戸中・頴娃高校時代は陸上部の長距離ランナーとして活躍する。成人してから失明の恐れのある進行性の難病を患い帰鹿。現在、盲学校に通いながら、パラリンピックをめざす。



パラリンピックをめざして
近くのグラウンドで練習に励む

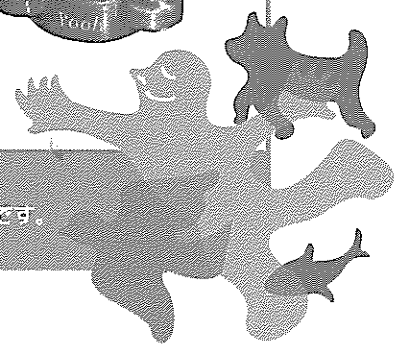
バリアフリーQ&A

Q1 おもちゃのパッケージに付いている犬のマークは？

A この犬は盲導犬をデザインしたもので、目の不自由な人たちもこのおもちゃを使って遊ぶことができますよというマークです。例えば、電池蓋の位置は手で触ればわかるようになっており、スイッチのON側には凸部を設けてあったり、ONにすると音が出るような工夫も施されています。

Q2 同じように、うさぎのマークは？

A うさぎマークは、耳の不自由な人たちもいっしょに遊べますよという目印です。音が出ていることを光や振動で確認できたり、音量調整機能があるおもちゃなどに、このうさぎマークが貼られています。



！ 盲導犬マークやうさぎマークの付いたおもちゃを共遊玩具と言います。
楽しいおもちゃを、目や耳に障害がある人も使えるように工夫したものです。
バリアを取り払って、遊びの輪がもっと広がればいいですね。

福祉のまちづくり広報誌
ありば
VOL.8　平成16年9月30日発行

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、
「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介する広報誌、
それが「ありば」です。

[感想をお寄せください]
鹿児島県保健福祉部障害福祉課
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町10-1
TEL.099-286-2111（内線2743）　FAX.099-286-5558
[E-mail] shougai@pref.kagoshima.lg.jp

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター（鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896）に備え付けてあります。